

# 当院に入院されリハビリテーションを 実施された患者さまへ

「急性期病院における高齢入院患者において、意欲が日常生活動作に与える影響」

南多摩病院では、廃用症候群でリハビリテーションを実施された入院患者さまの、診療情報を用いた研究を実施しております。この研究を実施することによる患者さまへの新たな負担は一切ありません。

また、患者さまのプライバシーの保護については法令等を遵守して研究を行います。あなたの資料・情報について、本研究への利用を望まれない場合には、下記の研究責任者へご連絡ください。

本研究への参加をお断りになった場合でも、今後の治療を受けるうえで不利な扱いを受けることは決してありません。研究に参加することを同意した場合でも、随時これを撤回できます。同意を撤回する旨の申し出を受けたときは、遅滞なく研究のデータベースから患者さまに関する情報を削除します。

## 【研究目的】

廃用症候群の患者さまのリハビリテーションを実施する際に、患者さまの意欲が日常生活動作（歩行、トイレ動作、入浴動作、排泄管理、整容、コミュニケーション、社会的交流等）の改善に影響を及ぼすことが報告されております。しかしながら、急性期病院にご入院された方の意欲が日常生活動作に与える影響についての研究は少ないのが現状です。そこで本研究は、対象患者さまの入院時の栄養状態が、日常生活動作の再獲得やご自宅への退院に影響を及ぼすか調査することを目的としております。

## 【研究対象者】

2020年10月1日から2023年12月31日の間に、南多摩病院にご入院され、廃用症候群の診断でリハビリテーションを実施された65歳以上の方を対象とします。

## 【研究に使用する情報】

年齢、性別、疾患、入院期間、転帰先、入院時・退院時の機能的日常生活自立度、筋力、歩行機能、バランス機能、認知機能、意欲、血液データ、栄養機能の評価を入院中に測定させて頂きましたデータをもとに解析を行います。なお新たに加わる身体的

および経済的、医療的負担はありません。

【情報の他機関への提供】

本研究は、研究の目的・方法を含め、他機関へ当院の保持する情報を提供することについては、医療法人社団永生会南多摩病院倫理委員会より承認を得ております。

【個人情報の取り扱い】

個人を特定する情報については、匿名化して解析に使用されます。

【本研究の資金源（利益相反）】

利益相反状態とは、「研究結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態」をいいます。この研究では研究費等は発生しないため、このような利益相反の状態にはなりません。

【問い合わせ先】

研究責任者：医療法人社団永生会南多摩病院リハビリテーション科 田井啓太

住所：〒193-0832 東京都八王子市散田町3-10-1

電話番号：042-663-0111

以上